

## 学生にドイツ語指導や留学アドバイス

今春、ドイツから来日したシュテファニ・リガーさん(国際交流事務課勤務)は、学生にドイツ語の会話指導やドイツ留学のためのアドバイスを行い、日本とドイツとの橋渡しの役割を担っている。来年、サッカーのワールドカップが開催されることもあって、05年は「日本におけるドイツ年」。シュテファニさんにドイツの魅力を語ってもらった。



ドイツ中部ハレ市の出身。同国屈指の伝統を誇るマルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク(本学の国際交流協定校)の修士課程を修了、日本学とドイツ言語学を専攻した。在学中は、チューターとして日本人留学生の補習授業を担当。99年、経済学部特別聴講生(指導・八林秀一教授)として1年間専大に学んだ。日本の伝統文化に実際に触れたことで「日本への興味がますます募りました」。卒業後も留学生にドイツ語指導を行ってきたが、「日本で働きたい。日本語をもっと勉強したい」という念願がかなっての来日だ。昼休みなどを利用し、初・中級対象のドイツ語課外講座を開講、正課授業のアシスタントも務めている。

日本では、他のヨーロッパ諸国に比べ、ドイツの人気はいまひとつ。ドイツ語に興味をもつ若い日本人も少ない。「それがとても残念」と言う。日本人旅行者がこぞって行く観光地は、ノイシュバンシュタイン城とロマンチック街道だが、「国内にはほかにも素晴らしい名所がたくさんあります」。観光地ばかりではない。首都ベルリンは、世界最大のテクノ音楽の祭典『ラブパレード』が開かれる都市として世界の若者から注目されていることを日本ではあまり知られていない。

また、ゴミ処理問題などで環境先進国として知られるドイツの暮らし振りをみるのも、「きっといい経験になると思います」。日本滞在は1年間だが、学内ばかりでなく、地域でもドイツ語会話教室を開きたいと意欲的だ。

---

### 第12回国際交流OB・OG会、懇親会

この会は、在学中に留学を経験したり、国際交流活動に励んだ学生を中心に、卒業後も親睦を深め、人的ネットワークを広げて大学の発展に寄与することと社会に貢献することを目的に設立されました。

現役学生との交流も目的とした懇親会の参加者を募集中。映画「ラスト・サムライ」に出演し、米国で活躍している尾崎英二郎さん(平3経済)の講演もあります。希望者は国際交流事務課・小山まで。

▼日程＝5月21日(土)13時30分～

▼場所＝神田キャンパス7号館・761号教室

▼講演テーマ＝「なぜハリウッドに勝てないのか? ～アメリカのショウ・ビジネス界と日本の芸能界はこんなに違う～」

## 新入留学生歓迎会 & 合宿オリエンテーション



新入留学生を歓迎し、大学生活を送る上で必要な事項の説明や、先輩との交流を深めることを目的に4月9、10日の1泊2日で「合宿オリエンテーション」が伊勢原セミナーハウスで開かれた＝写真。

新入留学生77人、先輩留学生40人、国際交流センター委員ら教職員27人の計144人が参加した今回は、住宅情報や医療費補助制度の説明のほか、特に査証関係説明に多くの時間を割いた。

参加者は「楽しく交流を深められ、日本での生活を理解出来た」などと感想を話した。



留学生からのメール(1)

思い切って飛び出してみて

増田 理那(経済)

イベロ・アメリカーナ大学に長期留学中

昨年の5月28日、希望と不安を胸いっぱい抱え、ここメキシコに到着。見るものすべてが新鮮で、初めは日本と全く異なる文化にカルチャーショックを受けましたが、すぐに順応し、充実した留学生活を送っています。

メキシコは、長い歴史に比例した魅力的な国です。古代マヤ文明の遺跡、豊かな自然、陽気な人々……。貧富の格差が非常に激しく、道で物乞いする子供達や地下鉄やバスで物を売り歩く人達がメキシコの代名詞になりつつある一方、毎日カッコいいスポーツカーで通学する学生がいたりします。

留学を希望したのは、学んできた開発経済を、メキシコという現場に身を置くことで、課題の研究を深めていくため、このような日常の光景からさまざまなことを考えています。

大学では、留学生用の授業と正規授業を履修し、常に伴う言葉の壁と共に闘っています。正直、決して簡単なことではありません。投げ出しそうになることもしばしばですが、スペイン語の力がついてきた自信と周りの人たちの支えがあって、ここまで来れたと思います。

留学とは、異国に身を置き、その文化に触れ、その国の言葉を話し、さまざまな体験をし、多くの人と出会うことであり、学問だけでなく、それ以外で得ることに大きな価値があります。離れて分かる日本の良さ、家族や友達への思い……。留学して気づくことも多いです。また「一期一会」、人との出会い、そこから広がる文化交流など、この留学は一生の財産になると自負しています。

留学を考えている皆さん、思い切って飛び出してみてください。必ず財産になると思います！

エーデルワイス同好会

40周年を迎えて

記念植樹と世界時計寄贈



創部40周年の記念講演会・交流パーティーを昨年11月に開いたエーデルワイス同好会が、記念企画の一環として生田緑地に桜の木を植樹した＝写真上。また、生田9号館5階の国際交流事務課協に世界時計を寄贈、留学生たちが母国の時間の確認に活用している。

40年間顧問を務めている大場國彦商学部教授の「徹自然愛」を合言葉に、自然を通したさまざまな体験をし、訪問した地方の文化や歴史に接して地元の方々との交流を深めてきた同会のOB会「うすゆき会」会員は約250人。記念実行委員会代表幹事の<sup>大</sup>里晃さん(昭44経営)は、「ボランティア精神や環境問題への意識などが活動を通じて自然に高まりました」と当時を振り返る。現代表の内野友樹さん(経営3)は「記念イベントを通じて先輩との交流を深めることが出来ました。会の精神を受け継いでいきます」と語る。ただいま新会員募集中。自然に興味のある方は部室を訪ねてみては……。

【ニュース専修2005年5月号13面】